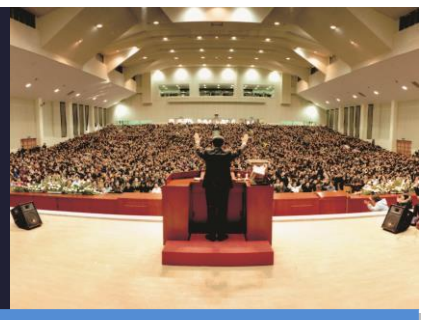
第 2018-41 号

恵みと真理のニュース



2018 年 10 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

放蕩息子のようだった私を見捨てなく暖かく抱いてくださり、礼拝中心、教会中心の生活をするように変化させてくださった神様の愛に感謝捧げます。”

私はソウルで暮らすときにイエス様を自分の救い主として信じ仕える生活をはじめてデグで暮らしてからアンヤンに引越ししてから恵と真理教会の聖徒になりました。アンヤンに引越しをするときには私は心と体が疲れ果てた状態でした。夫の事業の失敗で家を借りるお金がまったくないまま実家の近くに来ました。夫が家に帰って来ない状況で私は生計のために働かなければならなかったです。大変な仕事と家事をしたので主日に教会へ来ると礼拝時間は居眠りをしました。
続いてそんな生活をする中で区域礼拝に参席し始めました。区域長である勧士が多くの関心を与えてくださって信仰生活をうまくするように励ましや助けくださいました 。信仰が少しずつ成長して礼拝を捧げる回数も増えていきました。“ 実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。”（ローマ書　１０：１７）という聖書の御言葉のように当会長の牧師の説教をよく聴きながら神様の約束の御言葉に対する信仰が深くなり、心にも主の平安が望まれて明日に対する期待と希望を持つようになりました。私に区域長の職分を下さって福音を伝えながら、区域を仕えるようになりました。初めは働いている方と区域礼拝を捧げました。ところが、その方が夜も仕事が入っている時が多くて区域礼拝を良く休んで結局は他の所に引越しをしました 。私はしばらく間一人でも礼拝を捧げましたが、後では区域礼拝を捧げる考えすらしなくなりました。
教会に行っても牧師や伝道士や区域長達に会うのをはばかりました。教区伝道士から連絡が来たら教区室に入って挨拶するだけで一人で信仰生活するのと違いがなかったです。自分の事で忙しくて信仰生活はおろそかにしてしまい信仰はもっと弱くなり、心の平安と喜びもなくなりました。
そうするうちに、聞いたこともなく見たこともない病気にわずらいました 。ある日、歯を磨くときにとても痛くて叫びました。急に稲妻に打たれたように強く痛くてしびれる感じがしました。痛みで顔を洗うことも出来なくてご飯も食べることが出来ませんでした。
初めは歯に異常があると思って歯科に行ったら歯はどんな異常がないから神経に異常があるかもしれないので総合病院に行ってみなさいといわれました。総合病院に行って MRI検査を受けた結果“３次神経痛”という結果を受けました。その病院では治療が難しいから大学病院に行ってみなさいと言われました。翌日に行った病院でも同じでした。ついに私は病気の深刻性を認識してからインタネットで専門病院を探して見ました。
ソウルにある大きい病院で診療の予約をしました。洗えなく食事も出来なくてまず、ペインクリニックに行って治療の方法があるかどうか聞いて見ました。その病院から紹介してもらった病院に行くと“あなたのような患者を２０００人も超えるほど施術をした。”と言われました。その先生を信頼をしてすぐ入院して施術を受けました。施術は恐怖そのままでした。
麻酔をしないまま顔に注射の針の桶のような管が入りその中には針でアルコールを注入して神経を麻痺させる過程での苦痛は死ぬほうがマシだと思うほどでした。
はれないように氷でマッサージをしながら何日ぶりにご飯をたべましたが、施術を受けたほうは感覚がなくていくら噛んでも噛まれなくて口の中を噛んでしまってもどんな感覚がなく口から食べ物が落ちるのも知らなかったです
施術を受けなかった反対方で食べられるから感謝でした。私はすぐ治療が出来ると思いました。しかし、１年が過ぎなく、再発しました。その後１年一回づつ施術を受けました。人生を放棄したいときがありましたが、神様を畏れる聖徒だから自殺は出来ませんでした。
カンヤン同のドウヘン村で引越しをして教籍はそのままにしておいて一人で信仰生活をしながら２０１４年の最後の年越しの礼拝を参席して家に帰るため教区バースを乗りました 。その時、首区域長がわたしに近づいて“始めてみる顔ですが、引っ越しましたが？”と聞かれて、とても嬉しく挨拶してくださって“教籍を移してこれから私たちと共に信仰生活をしましょうと勧めました。その後から、首区域長はいつもわたしをほっておかなかったです。月曜祈り会、区域長の祈り会、水曜祈り会、金曜礼拝、エステル祈り会に参席するように私を導きました。主日も礼拝が終わると奉仕する宣教会でつれて行かれました。
首区域長が導かれるとおり従順して“はい。”と言いすべての礼拝に参席して方々と挨拶して付き合うようになるとわたしの心に主が下さる平安と喜びが溢れました 。福音のニュースを持って人々に“イエス様を信じ救いを受けなさい。”と伝道する神霊な楽しさも知るようになりました。特に宣教会に行くたびに部長の長老をはじめ勧士、執事が主の愛で挨拶してくださって抱いてくださったので、まるで めんどりがひなを抱いてくれそうだし 実家に来たように心がほのぼのとしました。
今まで信仰生活を熱心にしながったのを悔い改めて、熱心に礼拝を捧げ祈って隣人を仕え、教会に忠誠をして献身と奉仕する方々のように私も主からいただいた愛に感謝してまた、主の恵と愛を分け与える聖徒になるようと決断しました。
“すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。”（コリント信徒への手紙二１２：９）
使途パウロの告白に感動して神様が与えて与えてくださったすべての恵に感謝する時、神様は私にもう一度、機会を与えてくださり区域長の使命をくださいました。まだ、区域長の尊い職分を担えるには未熟で足りないですが、従順して最善を尽くすと時によって助けてくださる神様が知恵と能力を与えてくださるのを信じて最善を尽くそうとします。
最後まで使命をよく担えて主の前に立つとき“善きしもべ”という主の賞賛を受けるように期待と希望します。私を掴んだその手を離さなく、罪が多くい私を限りない恵と愛でここまで導いてくださった神様に感謝と賛美を捧げます。
主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。 主はわたしを青草の原に休ませ／憩いの水のほとりに伴い。 魂を生き返らせてくださる。主は御名にふさわしく／わたしを正しい道に導かれる。 死の陰の谷を行くときも／わたしは災いを恐れない。あなたがわたしと共にいてくださる。あなたの鞭、あなたの杖／それがわたしを力づける。 わたしを苦しめる者を前にしても／あなたはわたしに食卓を整えてくださる。わたしの頭に香油を注ぎ／わたしの杯を溢れさせてくださる。 命のある限り／恵みと慈しみはいつもわたしを追う。主の家にわたしは帰り／生涯、そこにとどまるであろう。

［信仰コラム］　感謝に関連して分類される三部類

＂すべての 事について，感謝しなさい。これが，キリスト・ イエスにあって，神があなたがたに 求めておられることである＂（テサロニケ人への第一の手紙 5:18）

感謝を感じて表現することは誰でもできることです。しかし、実際に物事に感謝する人は多くはありません。感謝を感じて表現することに上手な人はとても知恵があり、福のある人です。聖書は聖徒達に物事に感謝を感じて表現するよう重ねてお話ししています。そして実際的で模範的な例が数回、様々な模様で記録されています。なのにも人々がこれを実践しない理由は堕落した人間の本性のためです。従って、物事に感謝を感じて表現するためには積極的な練習が必要です。感謝に関連して三部類の人々に対して調べてみます。
第一は、感謝を感じたり表現するのに鈍くて渋い人がいます。その理由をいくつかに分けてみることができます。
一、感受性が退歩したためです。人が老いていきながら感受性が低下するのは自然的な現象です。しかし、老人になっても喜怒哀楽を感じて表現するのが若い人のような人がいる反面、無感動して無表情になる人もいます。肉体の各機関が使わないと衰退するように感謝を感じる感受性も使わないと衰退します。従って、感謝を感じて感謝を表現することが習慣化になるように励むべきです。二、自分が受ける恵沢を当然なことに扱うからです。自分が苦労するのは当然な義務に扱っても、他人の苦労によって自分が受ける恵沢は全て驚くべきなことに扱ってありがたさに感じて感謝するべきです。三、他人の助けに対して過小評価するからです。従って、他の人の好意と助けに対して過小評価せずに感謝すべきです。
第二は、不評が多い人がいます。
あることよりないことを考える人には不評が離れません。神様の言約に対する信仰が欠乏されると恨みと不評をするようになります。このような事実を証明する最も目立つ例を挙げると広野を行進したイスラエル子孫が見せてくれた行動です。旧約聖書の民数記に＂わたしの榮光と、わたしがエジプトと荒野で行ったしるしを見ながら，このように十度もわたしを試みて，わたしの 聲に聞きしたがわなかった人々はひとりも、わたしがかつて彼らの先祖たちに與えると誓った地を見ないであろう。またわたしを侮った人々も，それを見ないであろう＂と記録されています。イスラエル子孫が恨んで不評したのは神様に対する信仰の欠乏によることです。神様の御言葉に対して信仰で生きていく人に必ず現れる現象があります。それは物事を神様に感謝する態度です。
第三は、物事にありがたさを感じて感謝を表現するに積極的な人がいます。このような人から見られる特徴があります。
一、日常的で平凡なことから感謝の理由を探しだします。毎日の食事は日常的でありふれた事であるが、その中で感謝する理由を探してみると食欲があることと食べる物があるということを考えるようになります。このように私達の周辺を見ると感謝することが数多くあります。二、自分にあることを数えて話すことを楽しみます。神様が私達に恵みとして与えてくださったことを数えてください。収集家のようにそれらを収集して心の中に秘めてください。そして、これを楽しみながら感謝してください。
皆さんは、物事にありがたさを感じて感謝を表現するに積極的な人の部類に属するよう祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

四つの種類の金持ち（その1）

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

今日は、新約聖書の福音書に登場する金持ちのお話を扱おうとします。この時間には、その中に二つを見てみましょう。救いについての真理と知恵の生活の教訓が、その中にあります。

まず、「愚かな金持ち」に関するお話を見てみましょう。

ルカによる福音書 12 章に記録されているイエスが聞こえてくださった比喩です。 **「ある 金持の畑が 豊作であった. そこで 彼は 心の中で, 『どうしようか, わたしの 作物をしまっておく 所がないのだが 』と 思いめぐらして 『こうしよう. わたしの 倉を 取りこわし, もっと 大きいのを 建てて, そこに穀物や 食糧を 全部しまい もう. そして 自分の 魂に 言おう. たましいよ, おまえには 長年分の食糧がたくさんたくわえてある. さあ 安心せよ, 食え, 飲め, 楽しめ 』**しました。しかし、神は言われた、**「愚かな者よ、今夜、私はあなたの魂をあなたから買い戻すことである。その後、あなたの予備たが、誰のものになるのか」**としました
我々は、単に考えると、このたとえに出てくる金持ちはこの世で大きく成功した人です。彼は自分の所有物でいくらでも安らか休ん食べたり飲んだり楽しむことができると考えていました。しかし、神は彼の魂を呼び出せば まっすぐ死のからだになることも考えていないほど愚かだった。イエスはこのたとえを語られた後に**「自分のために 寶を 積んで 神に 對して 富まない 者は, これと 同じである 」**と言われました
神に対して豊かな人は何を所有しているかも、その所有が神を仕える手段になるようにします。神に対して豊かな人は主の仕事をするために、福音を伝えるために用いることが献身奉仕するのを楽しんでします。イエスご自身が約束されるのを**「だれでも, キリスト についている者だというので, あなたがたに 水一杯でも飲ませてくれるものは, よく 言っておくが, 決してその 報いからもれることはないであろう」（マルコによる福音書 9:41）**しました。これはキリストに属している信徒のために行った、どんなに小さな献身奉仕も報いであることを約束された言葉です。

次は、「最も可哀そうな金持ち」に関するお話を見てみましょう。

マルコによる福音書 16 章に記録されているイエスが聞かせてくれた比喩です。ある村に非常に大きな豊かな**金持ちが**暮らしました。 **彼は紫の 衣や 細布を 着て, 毎日ぜいたくに 遊び 暮していた. ところが, ラザロ という貧しい 人が 全身でき 物でおおわれて, この 金持の 玄關の 前にすわり, その 食卓から 落ちるもので 飢えをしのごうと 望んでいた. その 上, 犬がきて 彼のでき 物をなめていた. この 貧しい 人がついに 死に, 御使たちに 連れられて アブラハム のふところに 送られた. 金持も 死んで 葬られた** 金持ちの葬儀は、派手で盛大に行われました。

人々はラザロを哀れで不幸な人に考え、金持ちはうらやましく幸せな人に思いました
ところが、人々の見解と判断が正しくないという事実が、死の向こう側の世界に至るまでのお話の中で明らかにされます。ラザロは、死の瞬間、その魂が天使たちに捧げてアブラハムのふところに上げられ呼ばれて楽園に入りました。しかし、金持ちの魂は炎の中の痛み地獄に入りました。
一般的に考えると、ラザロは、人々が指す可哀そうな人の典型的なです。しかし、この物語の顛末を見てみると、実は金持ちが最も可哀そうな人です。その理由をいくつかに分けてみましょう

第一は、ここに登場する金持ちは、その魂が飢えの状態にあったため、最も可哀そうな人々です。
人は神のかたちで造られた存在として、他の被造物とは異なり、魂を持った存在です。したがって、人は食べたり飲んだりだけでは魂の渇望を解決することができません。イエスが言われた**『人は パン だけで 生きるものではなく, 神の 口から 出る 一つ 一つの 言で 生きるものである 』と 書いてある 」（マタイによる福音書 4：4）**としました。肉体の病気が深まれば、食欲を感じなかったように、霊的な渇望を全く感じない人がいる場合は、その人の霊的な状態は、非常に悲惨な状況にあることを示しているのです。霊的な欲求を感じないとか、霊的な飢餓の中ひたすら生きていく人は、最も可哀そうな人々です

第二には、ここに登場した金持ちは霊的に裸の状態であったため、最も可哀そうな人です。
金持ちは紫の衣や細粗布のころもを着ていました。経済的に豊かな金持ちが常に紫の衣と粗布を着ることをぜいたくと責める理由はありません。しかし、彼が可哀そうなのは、その魂が裸の状態だからです。私たちの魂は、義の服を着ています。 アダムとエバは、罪を犯した直後イチジクの葉でスカートを作って着ました。そんな手段として、彼らの不義と罪を隠すことができません。神がアダムとエバのために動物を取って革の服を造って着せました。この 革は、将来、人間の罪を代わりに担当して死なれる救世主によって被るの義の服のモデルです。 **ガラテヤ人への手紙 3 章 27 節に「キリストに合う バプテスマ を 受けたあなたがたは, 皆 キリスト を 着たのである**」としました。ですから、イエス・キリストを信じない人は、霊的に裸の状態で最も可哀そうな人々です

第三には、ここに登場した金持ちは霊的に可哀そうな状態にあるので、最も可哀そうな人々です。
金持ちは広い宴会席を備えた美しい壮大な家と高価な家財道具を持ちました。毎日ごちそうを設けながら、お金を浪費しました。ところが、彼は霊的にひどい貧乏でした。金持ちは神霊な知識がありませんでした。彼は創造主を知らないでした。人間の魂がどがと罪で死んだ状態にあるのを知らないでした。人類の歴史が神の主権と摂理の中で行われていることを知らなかった。金持ちは霊的な喜びと平安がありませんでした。この世の知識、地位、名誉、権威、物質が霊的な窮乏を満たしてくれることができません。この世のもので装いして表は飾るが、霊的なものを持たないで、だまされ空っぽな人々が最も可哀そうな人です

第四は、ここに登場した金持ちは霊的な孤子だったので、最も可哀そうな人々です。
イエスは弟子たちに言われた、**「わたしは 父にお願いしよう. そうすれば, 父は 別に助け 主を 送って, いつまでもあなたがたと共におらせて 下さるであろう. それは 眞理の 御靈である. この 世はそれを 見ようともせず, 知ろうともしないので, それを 受けることができない. あなたがたはそれを知っている. なぜなら, それはあなたがたと 共におり, またあなたがたのうちにいるからである. わたしはあなたがたを 捨てて孤兒とはしない. あなたがたのところに 帰って 來る」（ ヨハネによる福音書 14：16～18）**としました。聖徒たちは、死の席でも寂しくありません。父なる神の愛される子供なので、天使たちが来て仕え天国に導きます。ラザロは死ぬ瞬間に天使たちが来て、挙げられて楽園に導きました。しかし、金持ちは、死ぬ席から寂しく地獄に入りました

第五は、ここに登場した金持ちは永遠の避難所がなかったので、最も可哀そうな人です。
この世だけ見ていました。死の向こう側を考えていないでした。イエスご自身が言われた**「あなたがたは, 心を 心配がせないがよい. 神を信じ, またわたしを 信じなさい. わたしの 父の 家には, すまいがたくさんある. もしなかったならば, わたしはそう 言っておいたであろう. あなたがたのために, 場所を 用意しに 行くのだから. そして, 行って, 場所の 用意ができたならば, またきて, あなたがたをわたしのところに 迎えよう. わたしのおる 所にあなたがたもおらせるためである」（ヨハネによる福音書 14：1～3）**しました
ラザロと金持ちのお話は悲惨な病気で不完全に生きるから楽園に行くことができるというお話をしたいのではない。劇的な対照を介して、天国に入るのが比べなく重大さを示したいメッセージを宣言しています。ラザロは、この世で生活状況はひどく劣悪てもそのような中でも、神を見つけ、神を恐れるようになった人の典型として提示されました。イエス・キリストを信じて救われを得た聖徒たちの中で哀れで、恵まれない人はいません。経済的な困窮に処せでも不幸な人ではありません。経済的な困窮は不便を与えるだけです
肉体が柔らかくて病気になっても不幸ではありません。その痛みと不幸が永久に持続しません。これによって、さらに神様に頼っても、癒しの恵みの経験もすることになり、将来は復活の体を着ることになるからです。この世で経験されている欠乏と困難と苦痛を信仰で克服していくと、すべてが良い結果を得られます。したがって、クリスチャンはどのような場合でも、可哀そうな人ではありません。キリストを信じていない人が最も可哀そうな人です。聖徒の皆さんは、このように最も可哀そうな人々のために伝道に努めてください

今日は「自分のために富を積んで神に対して富まないしている愚かな金持ち」と「神霊なことについては知らず、肉の享楽だけで没頭していた可哀そうな金持ち」について見ました。愛する皆さんは神に対して富と神霊なことを慕う心がますます増して生きていくように願います。